



Discovery Camp

実施期間：令和7年5月24日(土)～25日(日)

目的・趣旨

国立青少年教育振興機構の各施設において、定住外国人等の子供を対象に、自然体験等の活動を通じた「生活・自立」を支援する取組を行い、子供達の自己肯定感の向上や基本的な生活習慣の確立につながる多様な体験を提供し、自立する力を身に付けることを目指している。本事業では、外国人と日本人の子供の交流の機会を設け、異なる文化や習慣を理解し合うことで、互いの人権を尊重する心を育む。また、課題解決型のプログラムを実施し、コミュニケーション能力や協働する力を養うことで、共生社会の実現に向けた態度を身に付けることを目的とする。

事業概要

【参加者数】 26名（中学生16名 高校生7名）

【実施内容】
 開会式・アイスブレイク アドベンチャー・オリエンテーリング
 ワークショップ「多文化共生社会で自分ができること」
 レクリエーション 焚火体験
 野外炊事「びっくり！ランチ」 閉会式・振り返り

【連携】 上越国際交流協会 5名 法人ボランティア 2名

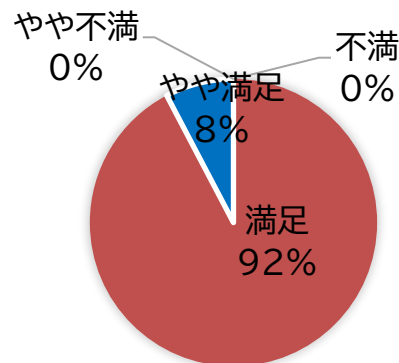
事業のポイント

- ワークショップ、アドベンチャー・オリエンテーリング、野外炊事「びっくり！ランチ」など、外国人と日本人の交流する体験の機会を意図的に設定した。
- 様々な活動を通して、互いの文化を理解したり、多文化共生社会を実現する態度を醸成したりすることを目指した。

成果

- 参加者の事業全体を通じた満足度は、「満足」「やや満足」を合わせて100%となった。
- 無意識のうちに抱いている「決めつけ」や「思い込み」に気づき、国籍や性別などによる差別や偏見について考えるきっかけとなった。キャンプ全体を通して、そうした偏見をもたずに他者と関わろうとする意識が高まり、それを行動に移す姿が見られた。
- 日本語を十分に話すことができない参加者の中には、日本語に不安があり、日本人参加者との関わりに消極的だったが、キャンプを通じて、「もっと日本人と関わりたい」と今後の目標を掲げる者もいた。
- レクリエーションは、法人ボランティアが事業の目的に沿ったプログラムを企画・実施した。ボランティアとして参加した学生からは、「企画段階から携わることで多くの学びや成長があり、自分に自信をもつことができた。」といった声が寄せられた。

参加者満足度



事業の様子



開会式



アイスブレイク



アドベンチャー・オリエンテーリング



ワークショップ「多文化社会で自分ができること」



レクリエーション



焚火体験



野外炊事「びっくり！ランチ」



集合写真

参加者の声

- はじめは外国人の方とどのように話してよいか分からず難しかったが、ワークショップ①や②で学んだことを生かし、見た目や国籍で決めつけてはいけないと思った。また、言葉が通じないときにはジェスチャーなどを使えば伝わるということを実感した。
- このキャンプを通じて、周りにいる日本人と話したり、一緒に活動したりする機会を増やしていきたいと思った。
- 言葉や国籍は違って、決して別の世界の人ではなく、一緒に笑ったり、協力したり、悲しみ合ったりできる。同じ部分の方が異なる部分よりも多いと感じた。

課題

- 日本人の参加者が予想より多く、外国人の参加者が少ない結果となった。外国人参加の促進には課題があることを実感した。
- 母語が英語ではなく、フランス語やドイツ語を話す参加者もあり、言語面での対応が一部難しい場面があった。視覚的な資料の活用やICT機器を用いた対応に努めたが、完全なサポートには至らない部分もあった。

詳しい様子はこちらより！



<https://qr.paps.jp/8UDMI>

自然の家 公式動画(YouTube)
妙高三ミチャンネル

